

令和3年度 南砺市総合計画推進委員会
議事概要

開催日時：令和3年9月28日（火） 14時00分～16時00分

開催場所：南砺市役所別館3階大ホール

出席委員：10名 中村委員長、大村副委員長、川合委員、吉田委員、森岡委員、杉野委員、
松本委員、遠藤委員、原田委員、小林委員

推進本部：11名 市長、副市長、教育長、総務部長、総合政策部長、市民協働部長、ブラン
ド戦略部長、ふるさと整備部長、議会事務局長、教育部長、地域包括医療
ケア部長

傍聴人：0人

次 第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. 市長あいさつ
4. 委員の照会
5. 委員長及び副委員長の互選
6. 議事
 - ・総合計画 令和2年度実績の検証結果について（資料1～2）
 - ・令和2年度地方創生関係交付金事業の進捗について（資料3）
7. 意見交換
8. 閉会

議事要旨

○：委員からの意見・質問 ●：推進本部の意見・回答

（6 協議事項について資料に基づき事務局より説明）

【未来に希望が持てるまち】について

- 桜ヶ池公園と井波の児童公園に行ったが人がいっぱいだった。もっと気軽に遊べる公園があれば良い。あと、姉妹が結婚しておらず、コロナの影響もあるだろうが、出会いの場がないように思う。普通に生活しているだけではそういった情報を得ることが難しい。
- 婚活支援については、平成23年から、市民グループによる活動を支援しながらノウハウを積み重ねており、現在約150組が成婚し、全国的にも注目されている。一方で、昨年行ったアンケート調査では、活動が市民に知られていないということがわかり、大きな課

題として認識しており、出前講座や地域づくり協議会へ足を運ぶなどして、活動内容や制度の周知に力を入れている。

- 人口減少、担い手の不足により農業が疲弊しているが、今回の総合計画の中に農業を守るということが欠落していると思い、策定に携わっていた身として反省している。
- G I G Aスクール構想により市内小中学生にタブレットが配布されたが、各家庭でW i - F i 環境が違うことについて、実態を把握しているか。また、今後のオンライン授業について、どのようなイメージで考えているのか。
- 各家庭のW i - F i 環境についての調査は、市内の全小中学校で2回行っている。その結果、通信環境が整っていないご家庭が約 50 件あることがわかり、環境整備を行うための助成制度を創設し活用を促している。
今後のオンライン授業のイメージについては、まずはコロナの影響で休んでいた間の先生と児童生徒の関係回復や心のケアを行い、将来的には子供の意見も先生に届く双方向の取組になればと思っている。

【多様な幸せを実感できるまち】について

- 資料に「ジェンダーギャップの解消」とあるが、女性が活躍できる社会の実現を進めてほしいと思っている。
- 女性の活躍について、企業や地域の風習等があり、なかなか思い切つてできないところがあるかもしれないが、企業の中でも女性が話せる場、活躍できる場をつくるといった具体的な動きがあればよい。
- 今後の取組に「女性の活躍の推進にむけたセミナー等を開催する」と書いてあるが、開催してよしではなく、効果があったかどうかをフォローするなどして、多様性のある社会の実現につなげてほしい。
- 地域づくり協議会を基本とした通所型サービスB型やフレイルサポーターの活動が普及したことにより、元気な高齢者が活躍できる分野が広がった。県下でも住民主体の通所型サービスに取り組んでいるところは少なく、南砺市は高い評価を得ている。
南砺市は砺波市と比べて介護認定を受けている高齢者の割合が多いと言われるが、認定を受けた方の機能回復や維持向上に地域ぐるみで取り組む、やさしい、思いやりのある体制がある。

【心豊かな暮らしができるまち】について

- 総合評価、政策評価いずれも「D」評価が多いのはなぜか。おそらく個別事業の「d」評価が多いためと思われるが、どのような基準で事業を評価しているのか。
- 個別事業の評価は各担当課が行っており、事業毎に成果指標を設定し、5年間の成り行き値（何もしなかった場合の状態）と、上位目標を達成するためにどの程度実施するべきかという目標値を設定して評価している。
- U I J ターンの促進といった若者を呼び戻そうという政策は素晴らしいが、資料を見ると、例えば「I. 未来に希望がもてるまち」で「南砺市の子育て環境の良さが市民に周知されていない」と検証している。「南砺市はこんな良い取組をしているんだよ」、「住みやすいところなんだよ」ということを転出する前に周知をした方がよいのではないか。一度出てしまうとなかなか戻ってこないなので、早い段階から情報提供を行えば良いのではないか。

また、結婚に悪いイメージがあると資料にあるが、「婚活」を前面に出すのではなく、南砺市で働いている若者を対象として異業種間交流会として、若い方を集めるイベントを行ってはどうかと思う。
- 事前に南砺市の人口について調べてきたところ、南砺市は昼間人口と40代の人口の割合が低い。働いている世代が居住していない、または外に出て働いているので、企業を立地し、雇用が生まれれば、子育てや住宅も増える。資料を見ると、企業立地にもしっかり取り組まれているが、その辺をもっと強調していただきたい。
- 市営バスについて、現在の運行を維持しながらデマンド運行を導入しては、お金がいくらあっても足りない。利用されていない便は廃止しながら、デマンド運行を実施すべきである。

デマンド運行の実証実験について、タクシー業者と地域づくり協議会と市の三者で話をしたが未だに方針がでない。進捗が遅い。

【皆で考えともに行動できるまち】について

- 私は南砺市はきめ細かいサービスを提供していると思っている。南砺市に住んでいて思うのは、「誇り」と「愛着」を持っているのは子供達だということ。いいところ、戻ってきたいと言っているのをよく聞く。ただ、ずっと暮らしていくためには何が必要かを子供達が考える土壌を育むことが、今後の人口の増減に関わってくると考えている。行政の施策として、南砺のすばらしさを子供たちに伝える情報の発信が大切である。

【全体について】

- 「心豊かな暮らしができるまち」（商工、産業の分野）については、ほかの目指すべきまちの姿と比べてコロナの影響を強く受けるものが多いため、総合評価が低くなったと思われる。新型コロナウイルスの影響を強く受けた事業を評価対象から外せば、政策評価、総合評価はもっと高かったと思う。
- 市民とともに取り組んだまちづくりの評価が、すべて「C」や「D」という結果に違和感を覚える。新型コロナウイルスの影響を受けた評価であることを説明してほしい。
- 「南砺幸せ未来基金」は、総合計画策定時は立ち上がったばかりで、事業をやっていたが、去年は1億円、今年は事業費と事務費を合わせて2億円を超える休眠預金を活用する団体である。行政が直接補助できないような事業に、休眠預金を活用するという財団法人は北陸3県に一つしかなく、行政もこんな団体があることを市民にPRしていただきたい。

また、地方創生推進交付金の指標に「地域づくり協議会が実践する収益事業の件数」があるが、例えば街路樹の除草や水道メーターの検針など、行政が直接やらなくても地域づくり協議会でやった方が効率的なものがある。地域づくり協議会に委託するとなると、契約手続きなど、行政の手間も増えるかもしれないが、小規模多機能自治を進める観点から、積極的に進めていただきたい。
- 総合計画の策定以降、コロナにより局面が大きく変わっている。家族や親戚で経営しているような小規模の企業は悲鳴をあげており、ビヨンドコロナで新しい政策を追加しないと、小規模企業が力を失い、地域全体が力を失う。
- 総合計画事業とは別に、コロナによる生活困窮や事業継続、経済回復にむけた消費喚起などの対策を実施している。それらのコロナ対策も含めて総合計画の評価検証を行うべきかについては、今後の検討課題とさせていただきたい。
- コロナで社会構造が変わることがあると思われるし、長期計画である総合計画を実施していく上で、反映させるべきものもでてくるであろう。兆候をしっかりとらえていくことが大事である。一時的なもの（緊急のもの）と構造的なものをわけて考えるのも一つの考え方ではないか。

（閉会）